

Flextileを買った森口さんのおはなし



森口さんはとある精密機器メーカーの、入社7年目の社員です。仕事にも慣れ、後輩もできて、充実した日々を過ごしています。

そんなある日、新製品のプロモーション担当を任せられました。全国各地を回り、会場を借りて、お客様に新製品のプロモーションをしなければなりません。責任重大です。森口さんは、会場に置くための、展示用バナーに頭を悩ませました。なぜなら会場ごとに、展示できるバナーのサイズが違うからです。

「設営には1人で行くし、時間内に設営終わるかな・・・」
「いつもの広げて使える大型のバックボードもいいけど、サイズが固定だし、置けない会場があるかもしれない・・・」

森口さんはすっかり頭を抱えてしまいました。

そんなとき・・・

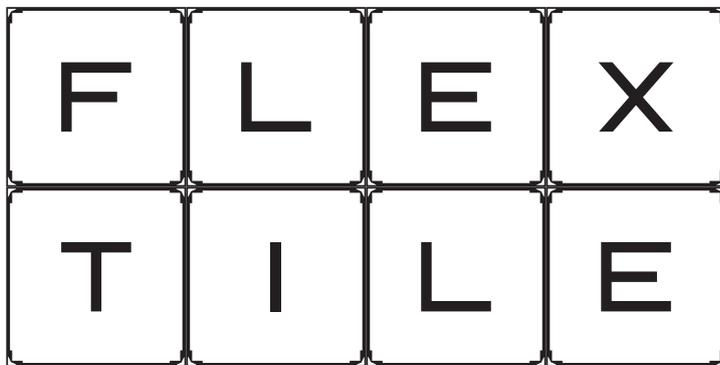
Flextile(フレックススタイル)

という什器を見つけました。
どうやらスウェーデン製のようなのです。

【森口さん基本ステータス】

名 前：森口ヒロシ 年齢：29歳 身長 178cm
血液型：A型 星座：ヤギ座
A社のSP部門担当

正方形のフレームを組合わせて、高さや幅をカスタマイズできるポータブル什器のようでした。これなら自由にサイズ調整できるので、どんな会場でも大丈夫そうです。しかも驚いたことに、ファブリックメディア什器としては見たこともないほどの薄型で両面使用が可能でした。印刷面をセットしたまま会場へ送れる事もあり、当日の設営時間も大幅に短縮できそうです。



※メディアをセットしたまま折りたたむのは片面設置の時のみです。

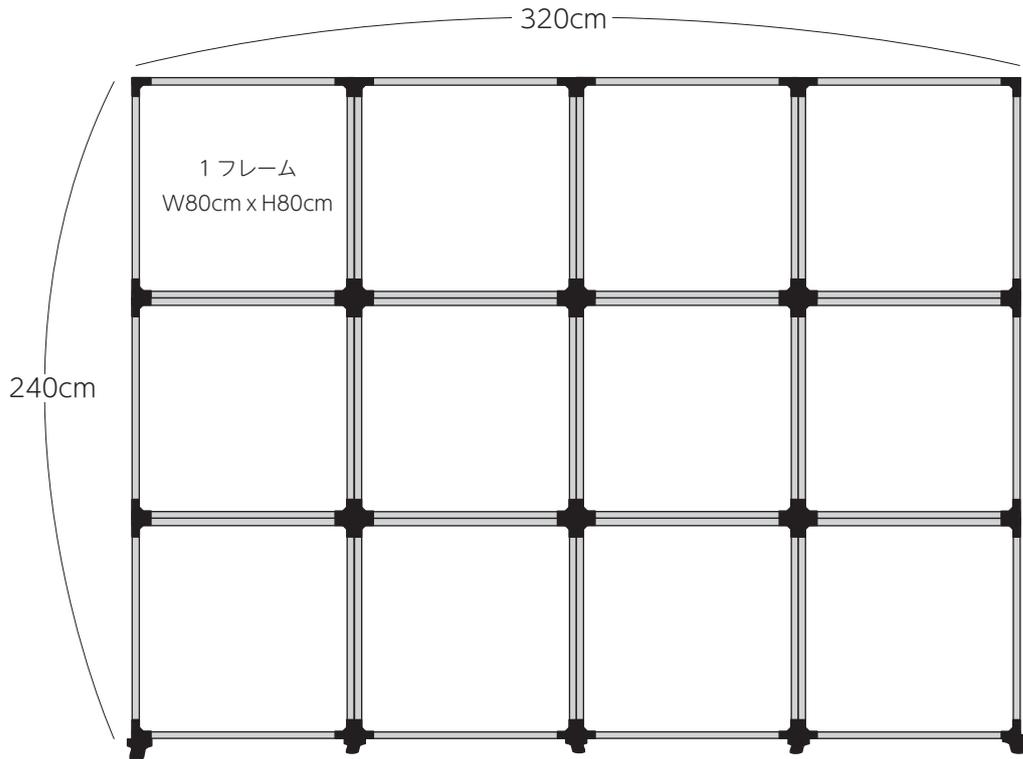
森口さんが選んだのは、

Flextile80 4x3 ユニットセットです。

普段は、**W320cmxH240cm** の

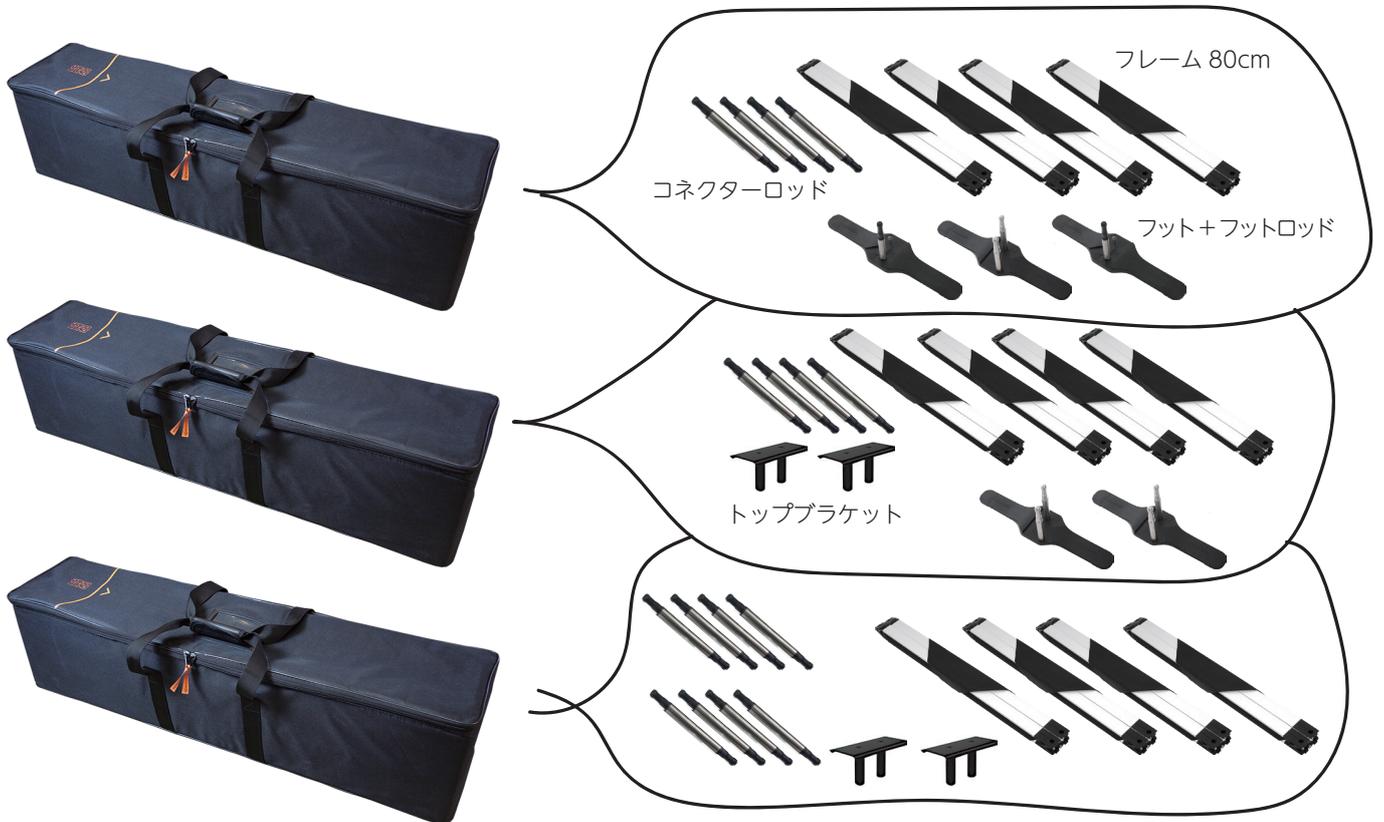
大型ポップアップとして利用できます。

講演会やイベントの装飾としてはとてもいい大きさです。



セット内容はこんなかんじでした。

1つのバッグにフレームが4つまで入るので・・・



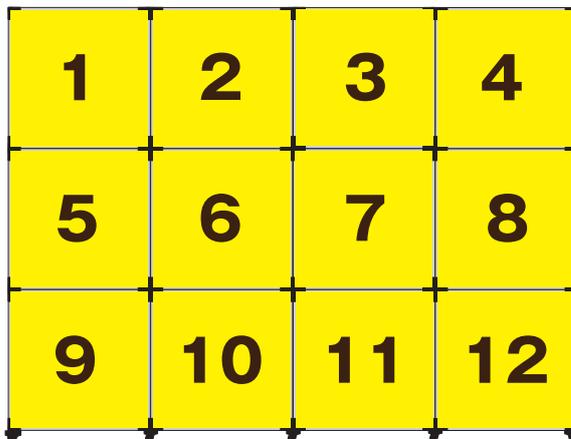
キャリーバッグ3つに分散されて、スッキリとまとまった状態で保管や移動ができるのです。

※一つのバッグにフレームが4つまで、フットが3つまで、ロッド類は各4本まで入ります。

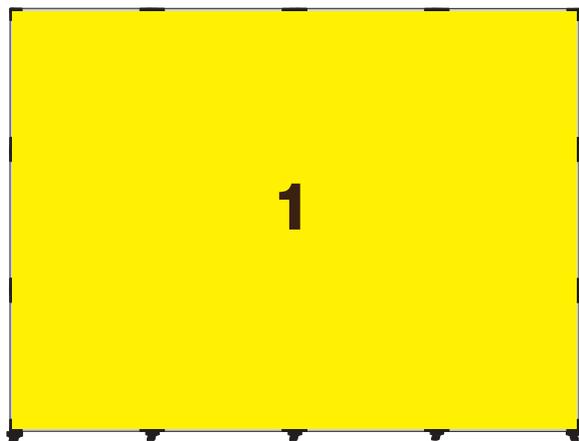
印刷面は、各フレームごとに準備しても、



12 枚！！（両面仕様の場合は 24 枚）



大判 1 枚！！（両面仕様の場合は 2 枚）

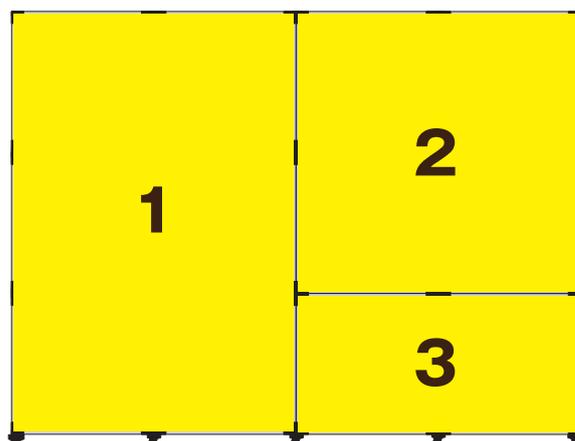
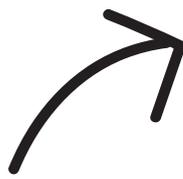


大判一枚でも



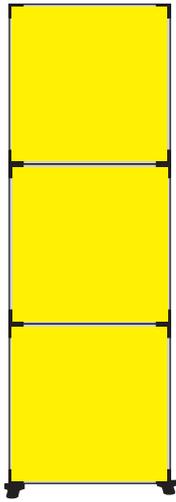
サイズ違いで 3 枚！！

使い道に合わせてどんな印刷面でも対応
できます。



しかも、Flextile には色々な使い方がありました。
様々なオプションがあり、使い分けることができます。

1x3の単品使いはもちろん・・・



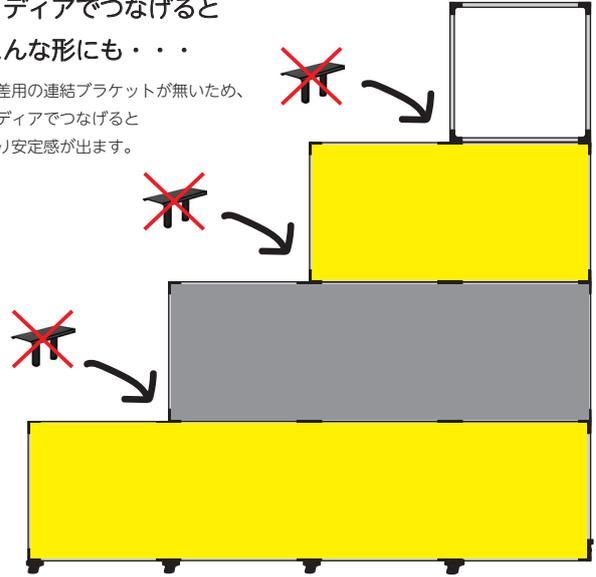
骨組



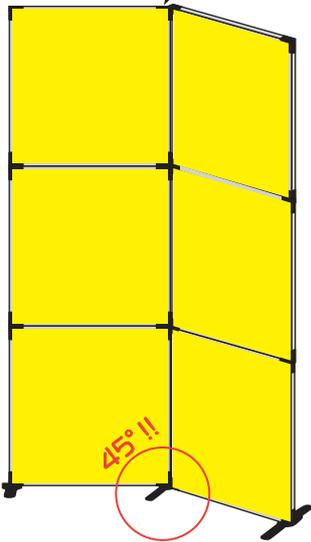
メディアでつなげると

こんな形にも・・・

段差用の連結ブラケットが無いため、
メディアでつなげると
より安定感が出ます。



プラス



パーツを足すと
角度をつけることも・・・

角度調整用トップブラケット

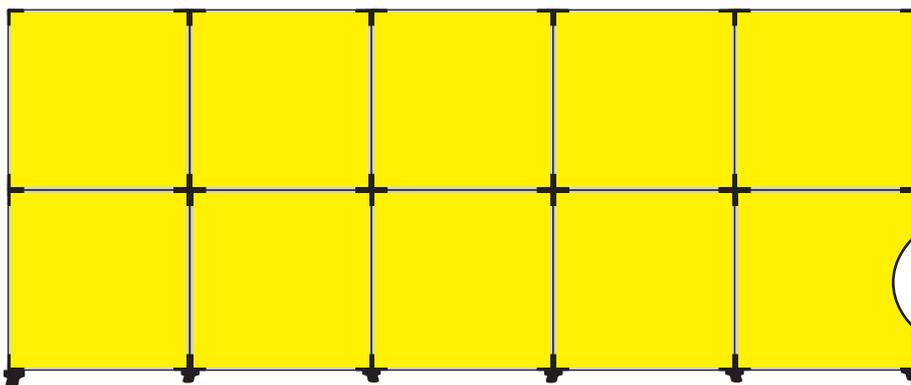


90°



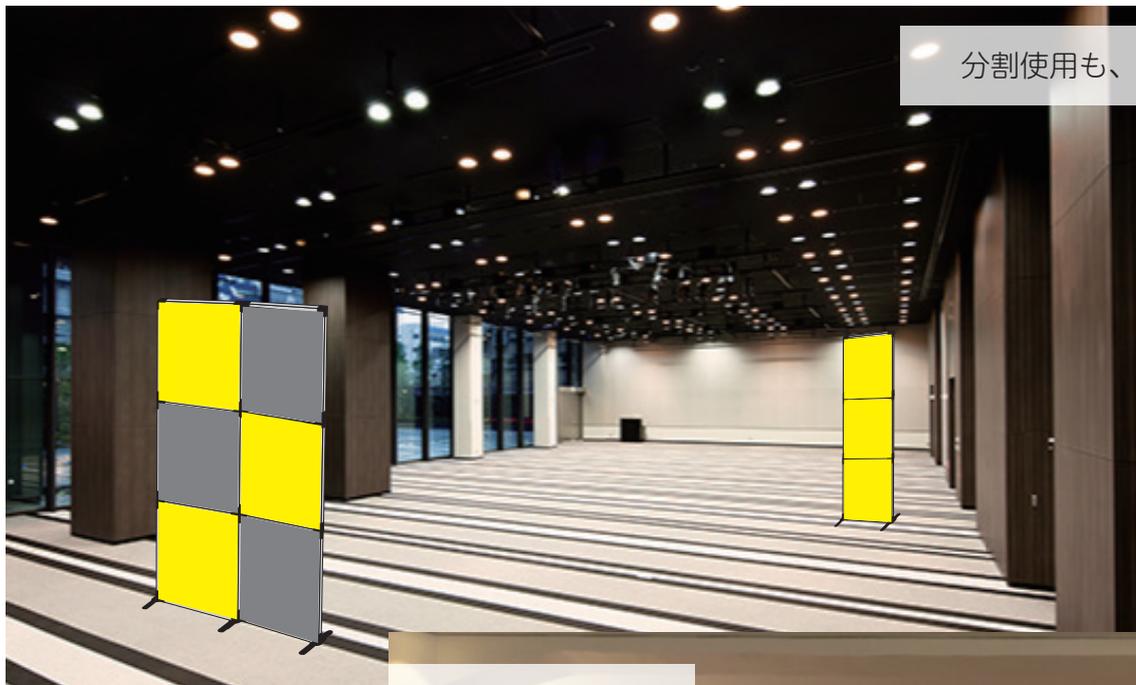
45°

横長にしてパーテーションにも・・・

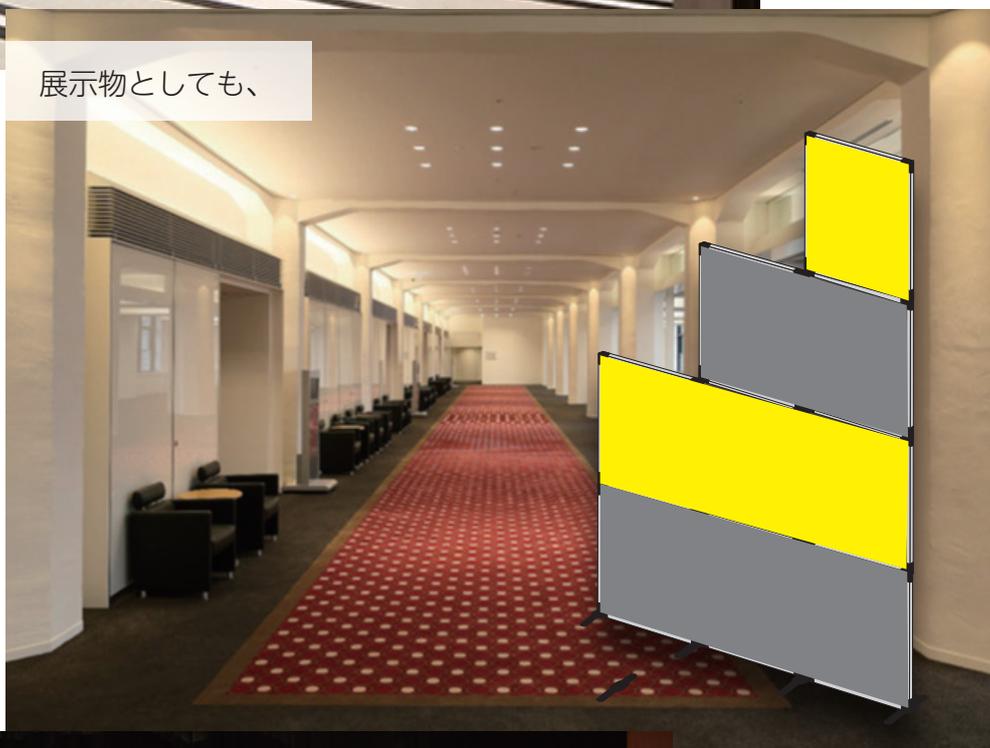


プラス

分割使用も、



展示物としても、



講演会中のパネルとしても、



あらゆるパターンで使いまわしができるのです。しかもこれは、全て当日に対応することができます。

森口さんは社会人を7年やってきて、少しはイベントにも詳しくなったと思っていましたが、こんなに薄型でかつ、両面对応のファブリックメディア什器を見たことはありませんでした。使いまわしも自由、保管場所にも場所をとりません。

「これは、人にも環境にも優しい、画期的な優れモノだ！！」

そういうことなのです。



高さが合えば、
サイズ違いのフレームでも OK !

その後、森口さんは無事全国プロモーションを終え、かつ人件費と施工費を大幅にカットして帰ってくることができました。会場装飾に時間を割く必要がなくなり、お客様対応に入念に時間を使うことができたので、プロモーションが大成功だったことは、言うまでもありません。

end.

Flextile(フレックスタイル)はスウェーデンのポータブル什器メーカー、Spennare(スペイン)社のオリジナル製品です。

世界的に権威のあるデザイン賞である、レッドドットデザイン賞と、IFデザイン賞をダブル受賞しており、デザイン性のみならず、機能美にも優れた製品です。

お問い合わせは インフォース株式会社 (www.inforce.co.jp) まで。

